

山形県社会福祉士会だより

Vol 2

平成 24 年 11 月 01 日発行 一般社団法人 山形県社会福祉士会

〒996-0021 山形市小白川町 2 丁目 3 番 31 号 山形県総合社会福祉センター内

TEL 023-615-6565 FAX 023-615-6521

HP: <http://www10.plala.or.jp/yacm/yacsw/> E-mail: yacsw@smail.plala.or.jp

発行責任者/安部 久 編集者/広報委員会

目 次

東北ブロック研修会報告 1	事務局より 2
障害者虐待防止法制定 2	編集後記 2

東北ブロック研修会報告

社会福祉士東北研修大会が、平成24年10月13日(土)～14日(日)福島県郡山市の磐梯熱海温泉で開催され、本県から安部理事長をはじめ8名の会員が参加いたしました。この研修大会は各県の持ち回りで開催され、今回で19回目の開催となりました。

初日は、「第20回福島県社会福祉士会公開講演会」と合同で講演とシンポジウムがおこなわれました。

「東日本第震災と人間の復興～なぜ福島県の生活再建が進まないか～」をテーマに講演では、福島県弁護士会貧困と人権に関する委員会渡邊純委員長(弁護士)より、現在の福島状況、なぜ生活債権が進まないのか、人間復興のために求められるものについて、原発賠償の実態などにも触れながら、専門家のネットワークの重要性や政策提言の必要性について話されました。特に弁護士として活動しながら「微力ではあるが無力では無い」という言葉が、私たちの心にも深く感銘を与えました。



シンポジウムでは、福島県特に浜沿い地方で活動している社会福祉士で、浪江町のスクールソーシャルワーカーの森岡氏、同じく介護老人保健施設の施設長渡辺氏、福島大学うつくしまふくしまみらい支援センター特任准教授天野氏からそれぞれの立場で震災後の取り組みと今の現状、課題について意見交換がなされました。



2日目は、日本社会福祉士会田村副会長より、東日本大震災への対応、連合体における運営の課題等についての報告、各県代表からの連合体以降についての提言などがなされ、連合体以降後の日本社会福祉士会には政策提言やシンクタンク的な役割機能、社会福祉士の職域の拡大に関する取り組みなどを強化してほしい等という意見がだされました。

また、大会開催にあたり大会宣言(下記参照)を採択し大会を終了いたしました。

今回は当初20名ほどの本県からの参加者を期待しておりましたが、8名となったことからワゴン車のレンタカーで参加いたしました。大会終了後、来年の大河ドラマ「八重の桜」の舞台となる会津若松城を訪ね、喜多方ラーメンを食べ、まだ少し早い紅葉を眺めながら初秋の大峠を越えての帰路となりました。

来年のこの大会は、岩手県で全国社会福祉士大会が7月6～7日に開催が予定されていることから、全国大会に集結することを確認しました。来年の全国大会の参加については、秋田県で全国大会を開催した時にバスのように、またバスをチャーターし参加したいと事務局では考えておりますので皆さん是非参加の予定をお願いいたします。

『第19回社会福祉士東北研修大会 大会宣言』

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、人々からたくさんの生命と生活、人生、土地、財産、地域を奪いました。さらに、福島県では安全とされてきた原子力発電所が最悪の事故を生じさせ、放出された放射性物質の影響は現在進行形であり、将来にわたり多くの問題を残すことになってしまいました。これは、東日本に生活する人のみならず、日本全体が、直面していることとも言えます。こうした中で、あたりまえに生きてゆくという権利さえも侵害され、深い悲しみや苦しみ、絶望、あきらめ、怒りの中にいる方々があります。一方、この中から希望を見だし、立ち上がろうとしている人々、そして、その方々を支えている多くの人々があります。

私たち社会福祉士は、どのような場合でも、一人一人をかけがえのない存在として見据え、自分たちの役割を全うします。また、それぞれの地域で、特性と創意工夫を持って、地域の方々、地域の組織、関係機関、他専門職等と連携し人間の復興と生活の再建のために力を尽くします。

私たちもまた、この社会を構成する一員です。それぞれ働く場は違いますが、人権と社会正義を拠り所として、社会で生活する人々の「当たり前」に生活ができる権利が実現できるように働いています。

これまで、大災害発生の際、社会福祉士が行ってきたように、この地震、津波、原発事故という未曾有の災害からの、人間の復興と生活再建のために、私たちも今ここで共に生活する人間として誠実にその役割を果たし、将来につなげていきたいと決心します。

東北六県の社会福祉士会は互いに協力し合い、全国にいる仲間とともにそれぞれの地域で、生活場面で、人と暮らしを支えるために「人間の復興」を目指し力を尽くしてゆくことをここに宣言します。

2012年10月14日

一般社団法人 福島県社会福祉士会
 公益社団法人 青森県社会福祉士会
 社団法人 秋田県社会福祉士会
 社団法人 岩手県社会福祉士会
 一般社団法人 宮城県社会福祉士会
 一般社団法人 山形県社会福祉士会

障害者虐待防止法が施行されました

虐待防止法の適用範囲（障害のある方に関して）

- * 家庭の高齢障害者にはこの法律および高齢者虐待防止法をそれぞれを適用
- * 施設入所者に対しては施設の種類に応じてこの法律およびそれぞれを適用

	18歳未満	18歳以上 65歳未満	65歳以上
家庭内	児童虐待防止法	障害者虐待防止法	高齢者虐待防止法
施設内	児童福祉法	障害者虐待防止法	障害者虐待防止法
職場内	障害者虐待防止法	障害者虐待防止法	障害者虐待防止法

障害者虐待とは・①養護者による障害者虐待

②障害者福祉施設従業者等による障害者虐待

③使用者による障害者虐待

障害者虐待の類型は・①身体的虐待②ネグレクト③心理的虐待④性的虐待⑤経済的虐待

市町村・都道府県の部局又は施設に、障害者虐待対応の窓口となる「市町村障害者虐待防止センター」・「都道府県障害者権利擁護センター」を設置することになりました。

支部活動報告（最上地区支部）

10/20（土）11：00～12：30 新庄市健康福祉祭り・味覚まつりの開催に合わせて赤い羽根共同募金を行いました。晴天に恵まれ、今年も無事に終わることができました。昼食後に解散しました。



山形県介護学習センターに新展示品！

大和ハウス工業 ロボット事業推進部より、セラピー用アザラシ型ロボット「パロ」をレンタルし、11月16日より展示しております。山形県介護学習センターは山形県社会福祉研修センターと同じ建物にありますので、興味のある方は足を運んでみてはいかがでしょうか？

●メンタルコミットロボ「パロ」

ギネスブック(2002年)にも認定されている「世界でもっともセラピー効果があるロボット」です。姿はタテゴトアザラシの赤ちゃんで、多数のセンサーや人口知能の働きによって、人間の呼びかけに反応し、抱きかかえると喜んだりするほか、人間の五感を刺激する豊かな感情表現や動物らしい行動をし、人を和ませ、心を癒します。



パロは世界各地の病院や教育機関などで、子どもたちに対するセラピーを目的に使用されています。またパロとのふれあいによる介護予防や認知症患者の脳機能改善に効果を上げています。



山形県介護学習センター講座予定

介護講座予定	講座名	講師
12月 5日	認知症の理解・若年性認知症の理解	臨床心理士 遠藤里美氏
12月 12日	栄養改善～毎日の食事を楽しみながら	管理栄養士 島崎みつ子氏
12月 19日	効果ある?! 認知症予防	米沢女子短期大学准教授 加藤守匡氏
1月 9日	転倒予防で転ばない体作り	理学療法士 吉田謙介氏
1月 16日	福祉用具の活用	福祉用具プランナー 富田真寿美氏
1月 23日	高齢期の薬の服用	薬剤師 石井浩之氏
1月 30日	悪徳商法に気をつけて	山形市消費生活センター消費生活専門相談員

♪申し込みは山形県介護学習センターへ♪ Tel.023-627-7431

～山形県社会福祉士会は山形県介護学習センターの指定管理者です～

★Information★ 日本社会福祉士会のホームページ

日本社会福祉士会のホームページには、国の動き、全国規模の研修情報など最新情報が掲載されています。また、会員ページにログインすると、会の諸手続き類入手はもちろん、一般募集以外の研修会や、日本社会福祉士会の委員会の動き知ることができ、認定社会福祉士認証・認定に関する情報を知ることができます。

インターネットを見ることができ、是非のぞいてみてください。



社団法人 日本社会福祉士会ホームページ → <http://www.jacsw.or.jp/>

認定社会福祉士認定・認証機構ホームページ → <http://www.jacsw.or.jp/ninteikou/index.html>

事務局より

10月末日現在 山形県社会福祉士会 会員数 **450名**

- ★身近に入会希望の方がいましたら事務局までお知らせください。こちらから入会申込書一式を送付させていただきます。
- ★年会費入会金の領収書がほしい方は事務局までご一報ください。
- ★住所や職場、氏名などが変わったら変更届をお忘れなく。

編集後記



蔵王にも初雪が降り、晩秋を過ぎ、冬へとむかっています。先日、母校のオープンキャンパスに行く機会がありました。学長の話の中で「泳ぎ方を知らなくて、溺れている人を助けられるか?」という問いかけに、「熱い気持ちだけでなく、自己研鑽により社会福祉援助技術を磨かなければ!」と、大学に入学した頃の新鮮な気持ちになりました。また、学生さんの福祉に対する熱意、社会福祉士取得に向けた意欲を伺い、「先輩社会福祉士として頑張らなくては!」という思いを強くしました。(広報委員)